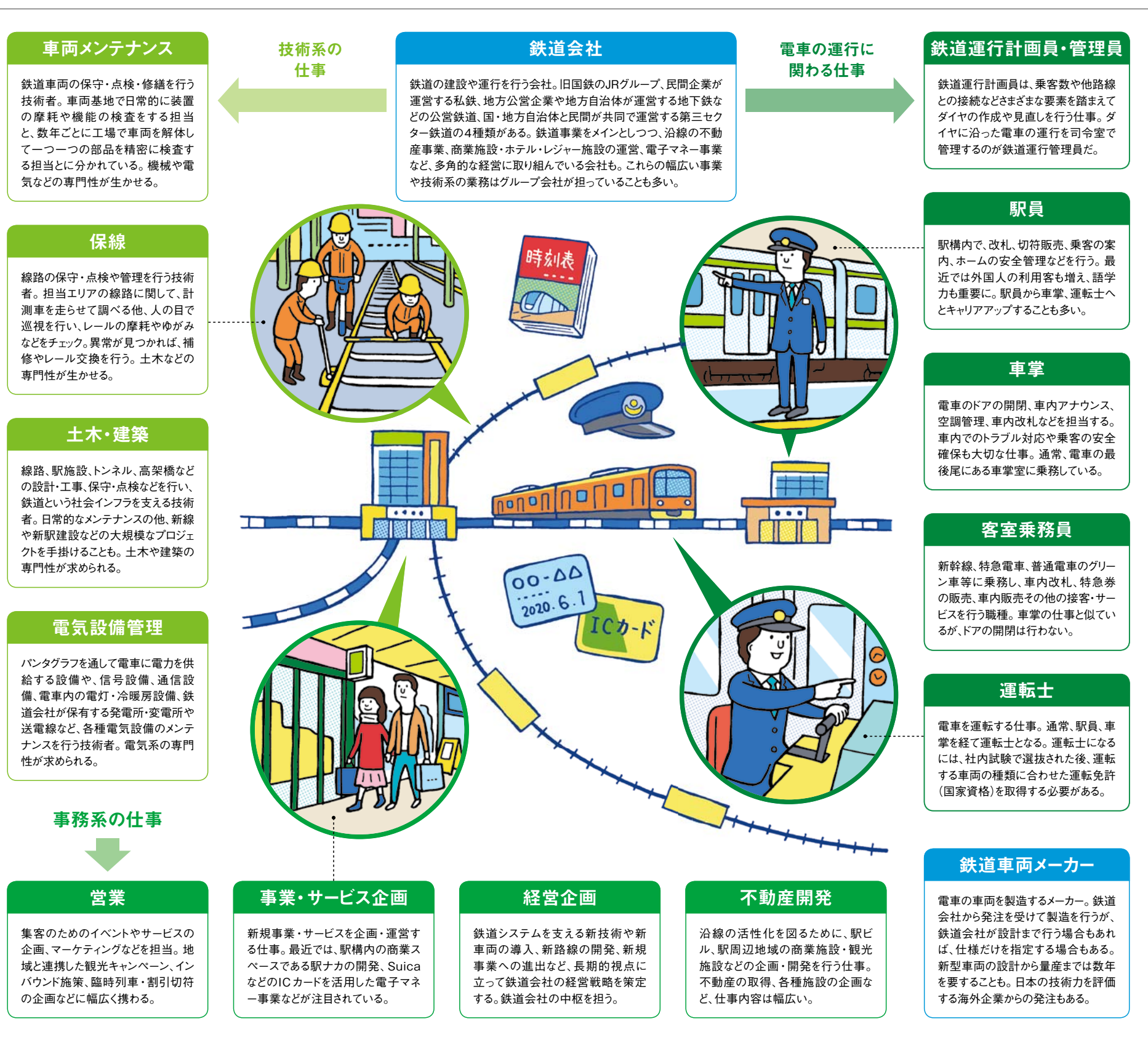


鉄道に関する仕事

取材・文/伊藤敬太郎 イラスト/桔川伸

人々の生活を支えるインフラである 鉄道事業は社会貢献度もやりがいも大!

鉄道という重要な交通インフラを支える仕事は、社会に対する貢献度もやりがいも大きく、就職先としての人気も高い。子どもの頃から電車の運転士や駅員に憧れていた高校生も少なくないだろう。では鉄道業界にはどのような仕事があるのか、それぞれどのような役割を果たしているのかを改めて整理してみよう。



車両メンテナンス

鉄道車両の保守・点検・修繕を行う技術者。車両基地で日常的に装置の摩耗や機能の検査をする担当と、数年ごとに工場で車両を解体して一つ一つの部品を精密に検査する担当に分かれている。機械や電気などの専門性が生かせる。

保線

線路の保守・点検や管理を行う技術者。担当エリアの線路に関して、計測車を走らせて調べる他、人の目で巡視を行い、レールの摩耗やゆがみなどをチェック。異常が見つければ、補修やレール交換を行う。土木などの専門性が生かせる。

土木・建築

線路、駅施設、トンネル、高架橋などの設計・工事・保守・点検などを行い、鉄道という社会インフラを支える技術者。日常的なメンテナンスの他、新線や新駅建設などの大規模なプロジェクトを手掛けることも。土木や建築の専門性が求められる。

電気設備管理

パンタグラフを通して電車に電力を供給する設備や、信号設備、通信設備、電車内の電灯・冷暖房設備、鉄道会社が保有する発電所・変電所や送電線など、各種電気設備のメンテナンスを行う技術者。電気系の専門性が求められる。

事務系の仕事

営業

集客のためのイベントやサービスの企画、マーケティングなどを担当。地域と連携した観光キャンペーン、インバウンド施策、臨時列車・割引切符の企画などに幅広く携わる。

事業・サービス企画

新規事業・サービスを企画・運営する仕事。最近では、駅構内の商業スペースである駅ナカの開発、SuicaなどのICカードを活用した電子マネー事業などが注目されている。

経営企画

鉄道システムを支える新技術や新車両の導入、新路線の開発、新規事業への進出など、長期的視点に立って鉄道会社の経営戦略を策定する。鉄道会社の中核を担う。

不動産開発

沿線の活性化を図るために、駅ビル、駅周辺地域の商業施設・観光施設などの企画・開発を行う仕事。不動産の取得、各種施設の企画など、仕事内容は幅広い。

鉄道運行計画員・管理員

鉄道運行計画員は、乗客数や他路線との接続などさまざまな要素を踏まえてダイヤの作成や見直しを行う仕事。ダイヤに沿った電車の運行を司令室で管理するのが鉄道運行管理員だ。

駅員

駅構内で、改札、切符販売、乗客の案内、ホームの安全管理などを行う。最近では外国人の利用客も増え、語学力も重要に。駅員から車掌、運転士へとキャリアアップすることも多い。

車掌

電車のドアの開閉、車内アナウンス、空調管理、車内改札などを担当する。車内でのトラブル対応や乗客の安全確保も大切な仕事。通常、電車の最後尾にある車掌室に乗務している。

客室乗務員

新幹線、特急電車、普通電車のグリーン車等に乗務し、車内改札、特急券の販売、車内販売その他の接客・サービスを行う職種。車掌の仕事と似ているが、ドアの開閉は行わない。

運転士

電車を運転する仕事。通常、駅員、車掌を経て運転士となる。運転士になるには、社内試験で選抜された後、運転する車両の種類に合わせた運転免許(国家資格)を取得する必要がある。

鉄道車両メーカー

電車の車両を製造するメーカー。鉄道会社から発注を受けて製造を行うが、鉄道会社が設計まで行う場合もある。仕様だけを指定する場合もある。新型車両の設計から量産までは数年を要することも。日本の技術力を評価する海外企業からの発注もある。

最新の業界事情

今後は鉄道システムの海外輸出にも期待

日本の鉄道は今も全国で建設が進められている。最近では、2019年11月に相鉄・JR直通線が開業し、話題となった。その他にも2022年開業予定の北陸新幹線(金沢〜敦賀)、九州新幹線長崎ルート(武雄温泉〜長崎)など数多くの計画が進行中。2027年には中央リニア新幹線(品川〜名古屋)も開業予定だ。

また、安全性や信頼性などに優れた日本の鉄道システムを海外に輸出する動きも国家レベルで進行中。鉄道会社や車両メーカーなどの海外展開も今後拡大していくと見られている。

保線は鉄道事業の安全を支える責任の重い仕事だ。富永さんは保線のなかでも、法令に基づいて検査などを行う検査担当として働いている。

線路に変位が生じていないか、摩耗してごぼごぼになっていないか、ゆがみが生じていないかなどを検査し、不具合が発生しないように補修するのがその役割だ。

「検測車を走らせて異常が見つかった場所に私たちが行き、標準ゲージという測定器具やコマと糸といった手で測定する道具を使って、実際に目で見て検査します」

検査は4〜5人でチームを組み、列車が運行している中に行う。列車見張員を配置し、列車が通過する時間の3〜5分に正確かつスピーディに作業を行わなければならない。チームワークも大切になる。

補修は終電後の深夜に行うが、補修工事の工程管理も業務だ。「ジャッキなどの道具を使ってレールを持ち上げたり、砕石を締め固めて補強したりします。面白いのはレール交換ですね。摩耗やゆがみを発見した場合などは部分的に新しい

この職業に就くには

鉄道会社の技術系の職種は、以前は高卒者の採用が多かったが、最近は専門卒、大卒の採用も増えている。いずれにしても、土木、建築をはじめとする工学系の基礎知識があると有利だ。入社時には、鉄道に関する専門知識はなくてもOK。高校時代には、さまざまな活動を通して責任感やチームワークを養っておくと、就職後に生かすことができる。

富永さんの「一日」

日勤(8時30分〜17時10分)が基本だが夜勤(0時〜5時)がある日もある。日勤はチームで1日3〜4カ所の現場を回る。夜勤がある日は、日勤終業後、保線区の事務所まで仮眠を取り、深夜に現場へ向かう。

レールの摩耗やゆがみを
職人技で検査し補修する

レールに交換するのですが、計測通りにうまくつながらないとキズする分、やりがいを感ずります」

経験を重ねると、移動中に乗っている列車の振動音でレールの異常を感じ取れるようになっていく。「直したところも列車に乗っているとわかるんです。目で見て、音で聞いて成果を実感できるのがこの仕事の魅力の一つですね」

職種 PICK UP!!

保線

東急電鉄株式会社
鉄道事業本部 工務部 保線課
梶が谷保線区
富永圭祐さん(30歳)

